

道するべ

No. 250

愛と人権

加西市が毎年全国公募している、子どもを想い、親を想い、そしてふるさとを想う「愛」のメッセージ、『愛の詩』には、昨年度も多数の作品が寄せられました。それは全国各地に及び、遠くはオーストラリアからも応募があったことに、この「愛の詩」の広がりを感じます。

今回「愛の詩賞」を受賞されたフジノハルミさん(兵庫県)の作品を紹介いたします。

背 中 フジノ ハルミ

耳の聞こえない父は
私の声を背中で聞いたんだって
幼い私をおんぶして
背中に響く私の声に
「ハルミ コエ アリマスカ」
と 嬉しそうに
祖母に聞いたって
祖母は
「うん あります」
と 涙ぐんだと…
あれから四十年
父に寄り添うこともなくなった今でも
私の声は
まだ あの背中にあるのだろうか
「ハルミ コエ アリマスカ」
と言った父の顔を
年老いた父の背中ごしに探している

私たちの歴史見つけた

156

石造文化財編



延命地藏

金剛寺の石造物(2) (野条町)

金剛寺は、寛政10年(1798)の開基と『加西郡誌』には掲載されています。

庚申堂前に残る方形の手水鉢は、長さ80cm、幅46cm、高さ63cmの凝灰岩製で、上面には深さ約20cmの方形の水溜穴を掘り込んでいます。この手水鉢のいわれは分からないものの側面には元禄

12年(1699)の年号を刻んでいます。当初から同寺で使われていたもので、また開基の年号が正しければ、100年は古くなり伝承どおり同寺には前身となる他宗派寺院が存在していたことが分かってきます。

また、山門横には、首と手足がとれてしまった凝灰岩製(高室石)の延命地藏が祀られています。台座から肩までの高さは約1mあり、台座に宝暦辰年(1760)という年号を読みとることができ、地蔵は、背面に刻まれた文様からいわゆる背面十字異形地蔵の一種として考えられている一群の地蔵であり、漢数字「二」状の文様が刻まれています。この文様は、当市に特有の文様であり近隣市町では、今のところ類例を見ないのが実情です。



ふるさと再発見の旅④ いいところあるよ加西にも

奇岩・霊岩を訪ねて

加西市には、「ゆるぎ岩」という卵を縦に立てたような形の大きな岩があり、「善人が押せば動き、悪人が押しても動かない」と言われています。その他にもいろいろな言い伝えの残る奇岩・霊岩があります。今回は、「ゆるぎ岩」のほか、畑町の河上稲荷境内の「鏡岩」と吸谷町の弥勒(みろく)坂中腹にある「蛙岩」をご紹介します。

これからハイキングに最適の季節を迎えます。一度、ゆるぎ岩・鏡岩・蛙岩を訪ねてみませんか。



ゆるぎ岩 (畑町)

この岩は「善人」が押せば動きます。あなたはどうでしょうか？



鏡岩 (吸谷町)

大人でも三抱えもあるような大きな岩です。蛙そっくりの形をしていて、人恋しさに一年に米一粒ほど里に近づいてきています。

蛙岩 (吸谷町)

大人でも三抱えもあるような大きな岩です。蛙そっくりの形をしていて、人恋しさに一年に米一粒ほど里に近づいてきています。

◆問合せ/加西市観光まちづくり協会 電話42-8823